

京大初！

コンソーシアムリレー講義

第3弾

# 人文学入門

常識を疑う

日常に隠れた

メディア・コミュニケーション

日常に隠れた  
人間と水の関係史

人と自然をつなぐ

他者に抱く  
印象と  
身体の相互作用

琉球諸語と  
その記録・保存

「思い込み」に気づく  
—マンガの事例から  
考える

哲学的  
メディア論



京都大学  
KYOTO UNIVERSITY

# 人文学入門

## 常識を疑う 日常に隠れたメディア・コミュニケーション

会場：キャンパスプラザ京都

開講期間：2017年9月26日（火）～2018年1月16日（火）

5講時 16時20分～17時50分（毎週火曜日）

定員：60名（先着順）

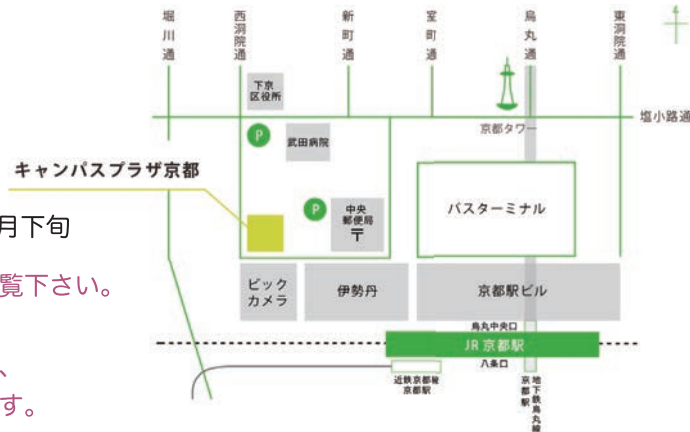
前期出願期間：3月下旬～4月上旬 後期出願期間：9月中旬～9月下旬

※単位互換・出願手続きの詳細については、以下のウェブサイトをご覧ください。

[http://www.consortium.or.jp/special/tani\\_gokan/index.html](http://www.consortium.or.jp/special/tani_gokan/index.html)

また上記の出願期間内で所属大学ごとに出願日程が異なりますので、

出願にあたっては各大学の担当部署にお問い合わせをお願いいたします。



\* 本リレー講義は、京都大学文学部が提供する、大学コンソーシアム京都・プラザ推奨科目（単位互換・後期科目、テーマH「現代社会を学ぶ」）です。

\*\* 提供大学（京都大学文学部）へのお問い合わせは、電話：075-753-2709、FAX: 075-753-2719 までお願いいたします。

授業内容についてのお問い合わせは、Mail: ueta.naoki.82x[at]gmail.com（担当：植田）にて受付いたします。

### 授業の概要・目的

本授業は、京都大学で学んできた新進気鋭の若手研究者がリレー形式で担当する。

現代日本、とりわけ京都で大学生活を送る私たちは、日常において異文化と触れ合う機会も多いが、自分たち、あるいは他者の文化や社会をどのように認識しているだろうか。自分が目にした日常世界がすべてだと思いついてはいないだろうか。

本授業では、日常に隠れた「メディア・コミュニケーション」に目を向けることで、私たちの「常識」を疑うことから始める。「メディア・コミュニケーション」の意味するところは、単に「テレビやSNSを通じて情報をやり取りすること」にとどまらない。私たちが言語や身体など無数の「メディア（媒体）」を通して世界を認識していること、そして日常のありとあらゆる場面で「コミュニケーション（伝達機構）」が機能していることを、歴史学や哲学、心理学、言語学などの観点から広く学ぶ。普段とは異なる観点から物事を見る目を養い、日常世界を捉え直すことが、本授業の主たる目的である。また、学生による発表や質疑応答、ディスカッションなどのアクティブ・ラーニングを活用することで、新しい視点を取り入れ、主体的に考え、課題を発見し、課題に共同で取り組む力も身に付ける。

### 担当講師

児玉聡：京都大学文学研究科准教授

植田尚樹：大阪大学言語文化研究科

トジラカーン, マシマ：文学研究科研修員

満原健：文学研究科非常勤講師

林由華：国立国語研究所

藏口佳奈：文学研究科非常勤講師

白木正俊：大阪府立大学非常勤講師

長岡徹郎：文学研究科非常勤講師



### スケジュール

[1] イントロダクション（植田）

「思い込み」に気づく—マンガの事例から考える（トジラカーン）

[2] 「あさきゆめみし」の事例にみる現代人の「思い込み」

[3] 「思い込み」はいかにして拡散していくのか

—「クローズアップ現代+」の事例から

哲学的メディア論（満原）

[4] 言語というメディア

[5] 身体というメディア

琉球諸語とその記録・保存（林）

[6] 世界の言語の現状と琉球諸語

[7] 危機言語の記録・保存

他者に抱く印象と身体との相互作用（藏口）

[8] 他者の印象はどのように形成されるのか—実験心理学的アプローチから（1）

[9] 他者の印象はどのように形成されるのか—実験心理学的アプローチから（2）

日常に隠れた人間と水の関係史（白木）

[10] 歴史的視点で人間と水との関係を考える

[11] 鴨川を事例に人間と水との関係史を考える

人と自然をつなぐ（長岡）

[12] 人と自然との断絶—科学的立場の長所と短所

[13] 人と自然との未来に向けて—自然との共存は可能か？東洋的立場から考える

[14] レポートの書き方（林）

[15] まとめ（植田）

提供：京都大学文学部

後援：京都大学高等教育研究開発推進センター

